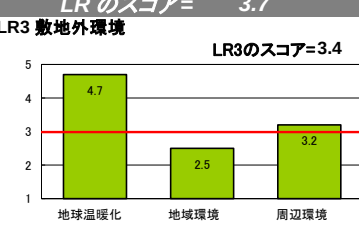
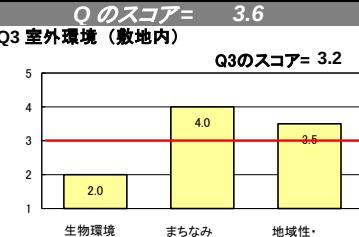
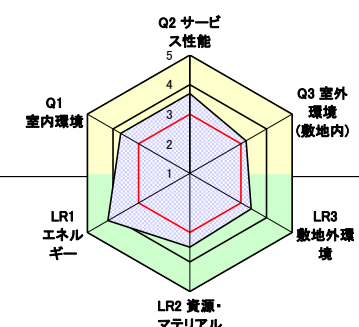


■ 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD NC 2016(v3.0)_AICHI



外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	27.3 %
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	10.2 %
＜外装材に使用した地域性のある材料＞	
なし	
建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材	
豊田市の地域産木材	

$$\begin{aligned} \text{外構緑化指数} &= \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100 \\ \text{建物緑化指数} &= \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100 \end{aligned}$$


CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
【仮称】みなよし地区拠点施設

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体								
Q 建築物の環境品質																		3.6
Q1 室内環境																		3.7
1 音環境																		3.0
1.1 室内騒音レベル																		
1.2 遮音																		
1 開口部遮音性能																		
2 界壁遮音性能																		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																		
1.3 吸音																		
2 温熱環境																		3.4
2.1 室温制御																		
1 室温																		
2 外皮性能																		
3 ゾーン別制御性																		
2.2 湿度制御																		
2.3 空調方式																		
3 光・視環境																		
3.1 昼光利用																		
1 昼光率																		
2 方位別開口																		
3 昼光利用設備																		
3.2 グレア対策																		
1 昼光制御																		
3.3 照度																		
3.4 照明制御																		
4 空気質環境																		4.7
4.1 発生源対策																		
1 化学汚染物質																		
4.2 換気																		
1 換気量																		
2 自然換気性能																		
3 取り入れ外気への配慮																		
4.3 運用管理																		
1 CO ₂ の監視																		
2 喫煙の制御																		
Q2 サービス性能																		3.7
1 機能性																		4.0
1.1 機能性・使いやすさ																		
1 広さ・収納性																		
2 高度情報通信設備対応																		
3 バリアフリー計画																		
1.2 心理性・快適性																		
1 広さ感・景観 (天井高)																		
2 リフレッシュスペース																		
3 内装計画																		
1.3 維持管理																		
1 維持管理に配慮した設計																		
2 維持管理用機能の確保																		
2 耐用性・信頼性																		3.8
2.1 耐震・免震・制震・制振																		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																		
2 免震・制震・制振性能																		
2.2 部品・部材の耐用年数																		
1 躯体材料の耐用年数																		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																		
6 主要設備機器の更新必要間隔																		
2.4 信頼性																		
1 空調・換気設備																		
2 給排水・衛生設備																		
3 電気設備																		
4 機械・配管支持方法																		
5 通信・情報設備																		

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3	
3.1 空間のゆとり			②		0.3	4.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	-		
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	1.00		3.0	-		
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	-	3.2	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	5.0	0.50	-	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.7	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.6	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI=0.45	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価		1.0	3.0	1.00	-	-	-	-		
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
	集合住宅の評価		-	-	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1	節水		3.0	4.0	0.40	-	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5	
2.1	材料使用量の削減	② 独自	-	2.0	0.07	-	-	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.24	-	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	5.0	0.20	-	-	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	3.0	0.05	-	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	4.0	0.24	-	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	5.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	-		
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮			①	-	4.7	0.33	-	-	-	4.7	
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	-		
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	騒音	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	-		
2	振動	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	-		
2	砂塵の抑制		-	1.0	-	-	-	-	-		
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	5.0	0.70	-	-	-	-		
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	-		

重点項目スコアシート
(仮称)みなし地区拠点施設

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.7	0.10	3.5
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:27.3%/建物緑化:10.2%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	豊田市の地域産木材

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)みなよし地区拠点施設

計画上の配慮事項	
総合	多世代交流の中心拠点として、周辺住宅に配慮しつつ、にぎわいを感じられる空間・建物デザインとした。 建物の維持管理に考慮し、耐久性の高い建物となるように配慮した。 高効率設備を採用するなど、環境負荷の低減に配慮した。 災害時の避難所として、非常用発電機、下水道直結貯留型マンホールトイレを設置した。
Q1 室内環境	外壁の高断熱性能を確保し、窓ガラスにはLow-E複層ガラスを採用した。 内装材はF☆☆☆☆を全面的に採用し、換気量も十分に確保した。
Q2 サービス性能	にぎわいを感じられるような内装デザインとした。 使用材料はメンテナンス性や清掃性に配慮した材料とした。 構造計算の重要度係数 I=1.25 とした耐震性の高い建物とした。 空調は個別分散方式とした。
Q3 室外環境(敷地内)	地域の憩いの場として、屋外イベントエリアを設置した。 高木や庇を設置し、敷地内の温熱環境に配慮した。
LR1 エネルギー	外皮性能の高断熱化、高効率設備の採用等により建物の省エネルギー化に考慮した。
LR2 資源・マテリアル	節水器具を採用、リサイクル資材を積極的に利用した。 鉄骨造として、構造体と仕上げが容易に分別可能となるようにした。
LR3 敷地外環境	雨水流出抑制対策を実施した。 適切な台数の駐輪場の確保や敷地内の歩車分離に配慮した。 緑地を積極的に確保した。
その他	特になし